

第38回視覚障がい乳幼児研究大会（横浜大会）

「インクルーシブ教育時代の視覚障害児への 早期介入の在り方を考える」

実行委員会作成プログラム ver.2.5



主催：視覚障がい乳幼児研究会

共催：文部科学省科学研究費基盤研究(A)「通常の学級で学ぶ視覚障害児のための合理的配慮に関する支援システムの構築」プロジェクト、
文部科学省戦略的研究基盤形成支援事業「コミュニケーション行動の生涯発達研究拠点」プロジェクト

後援：全国盲学校長会、関東甲信越地区盲学校長会、神奈川県教育委員会、
横浜市教育委員会

協力：横浜市立盲特別支援学校、横浜訓盲学院、神奈川県立平塚盲学校、
慶應義塾大学日吉心理学教室

日時：2016年8月21日（土）～22日（日）

場所：慶應義塾大学日吉キャンパス「来^{らい}往^{おう}舎」

作成：第38回視覚障がい乳幼児研究大会（横浜大会）実行委員会

<http://web.econ.keio.ac.jp/staff/nakanoy/info/20160820.html>

ご挨拶

1979年に、視覚障がい乳幼児の保育に携わる専門家の情報交換の場としてスタートした伝統ある研究大会を、横浜の地で開催させていただけることになり、関係者一同とても光栄に思っています。

本年度の4月より障害者差別解消法が施行され、障害を理由とする差別の解消が推進されることになり、障害のある子供達の環境は変化しつつあります。インクルーシブ教育も推進されつつあり、地域の保育園や幼稚園に在籍している視覚障害のある乳幼児も増えてきています。障害児への配慮が権利として認められ、地域の保育園や幼稚園で育てる環境が整いつつあることは、我々専門家の願いでもあったわけですから、とても喜ばしいことです。しかし、視覚に障害のある乳幼児やその家族が専門家と出会うチャンスは十分に確保出来ているのか、組織の中で療育・保育の取り組みの重要性が十分に理解されているのか、視覚障害のある乳幼児に対する専門性を発揮できる支援体制が出来ているのか等、気になることもあります。

本大会では、このような問題意識に基づき、「インクルーシブ教育時代の視覚障害児への早期介入の在り方を考える」というテーマを掲げ、関係者の研修・議論を深めていきたいと思います。基調講演には小児眼科の権威である平和眼科の富田香先生に、教育講演には視覚障害乳幼児教育の権威である宮城教育大学名誉教授の猪平眞理先生と乳幼児の言語の獲得や社会認知能力の発達の権威である慶應義塾大学赤ちゃんラボの皆川泰代先生にお越しいただけることになりました。シンポジウムでは、「インクルーシブ教育時代の視覚障害児への早期介入の在り方を考える」というテーマについて、「盲学校の幼稚園部・早期相談の取り組みの現状と課題を中心に」というサブタイトルで議論を深めたいと思います。視覚障害乳幼児の療育・保育に関心のある方だけでなく、様々な立場の方々にご参加いただき、視覚に障害のある乳幼児への早期介入の重要性を確認し、推進するための方法を模索できれば幸いです。

なお、ポスター発表や機器展示の時間も用意しています。各学校・施設等の日頃の実践を気軽にご発表いただき、意見交換が出来ると幸いです。

皆様の多数のご参加と、ご発表・ご参加を心よりお待ち申し上げます。

2016年8月吉日

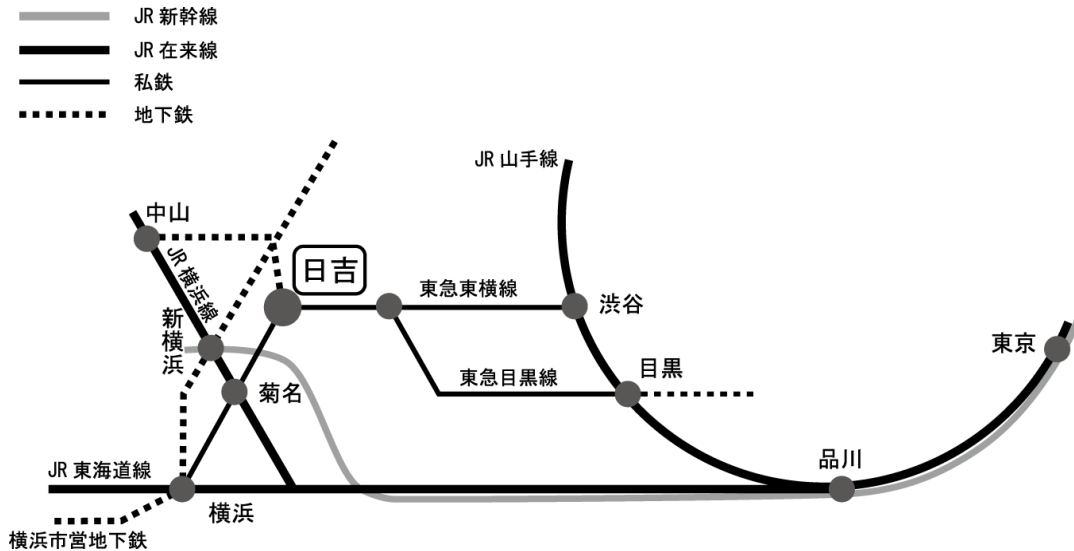
第38回 視覚障がい乳幼児研究大会（横浜大会）実行委員会
委員長 中野 泰志

会場へのアクセス

大会会場

慶應義塾大学 日吉キャンパス

〒223-8521 神奈川県横浜市港北区日吉 4-1-1



■交通アクセス

- ・ 東急東横線、東急目黒線
- ・ 横浜市営地下鉄グリーンライン

日吉駅下車、徒歩 1 分

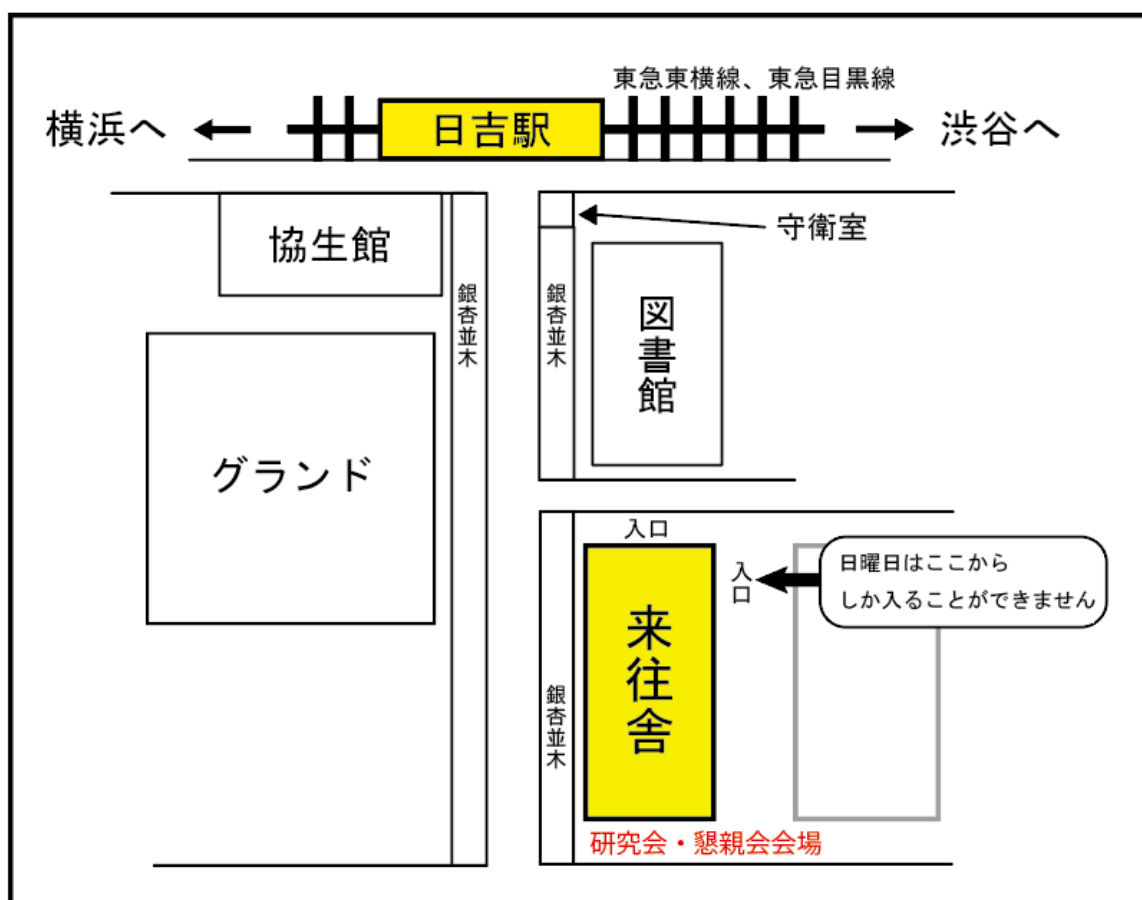
※渋谷～日吉：25分(急行約20分)

※横浜～日吉：20分(急行約15分)

※新横浜～菊名～日吉：20分

※東急東横線の特急は日吉駅に停車しません（「通勤特急」は停車します）。

キャンパスマップ



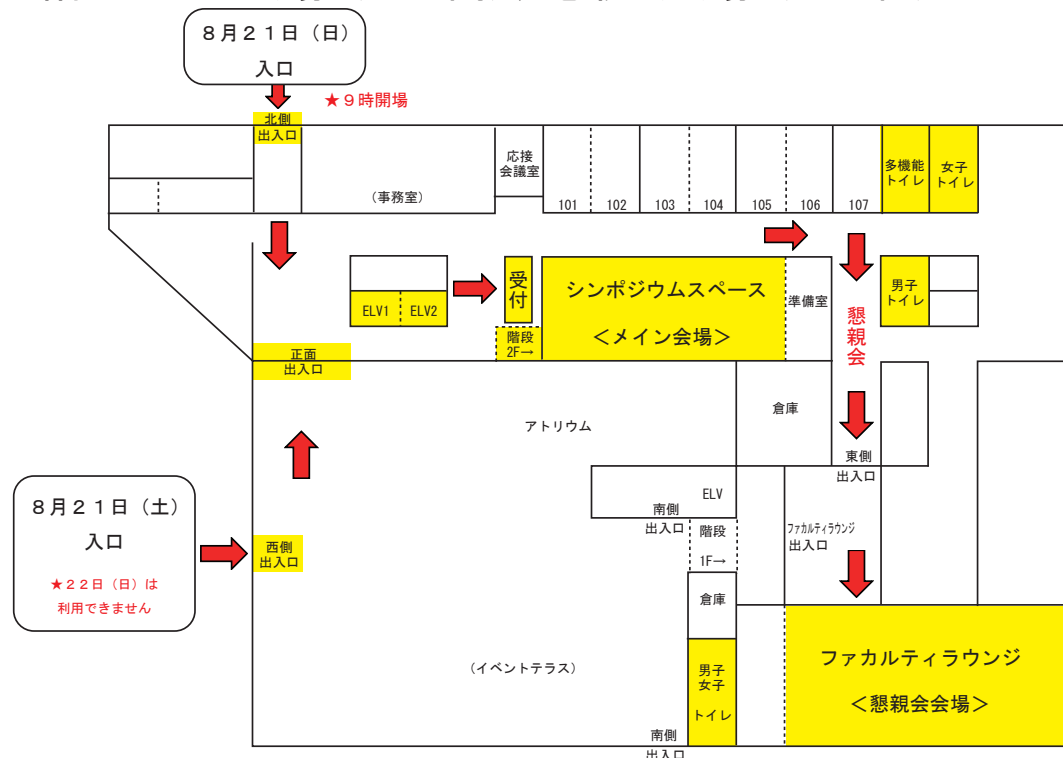
駐車場はございません。公共交通機関をご利用ください。



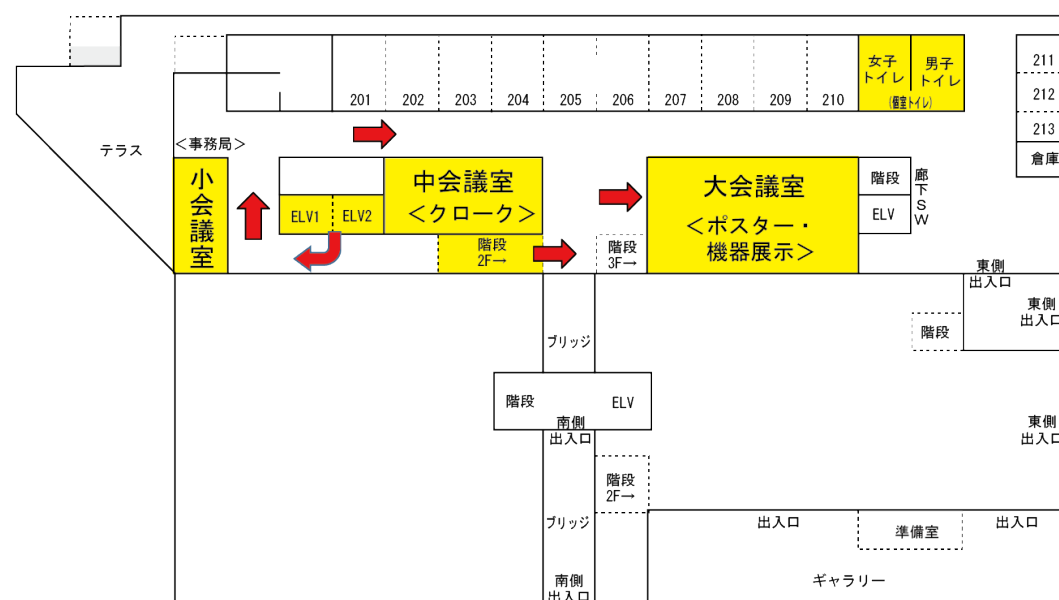
<会場：来^{らい}往^{おう}舎>

会場案内

1階：メイン会場（2日間）、懇親会会場（1日目）



2階：クローク（2日間）、ポスター・機器展示会場（2日目）



大会スケジュール 1日目（8月20日〔土〕）

1. 全体会（1階・シンポジウムスペース）

12時15分～12時45分 受付

12時45分～13時00分 開会式

13時00分～14時30分 基調講演

「視覚障がい乳幼児の眼科診療と教育との連携」 富田 香（平和眼科）

14時30分～14時40分 休憩

14時40分～16時10分 教育講演1

「視覚障害乳幼児の運動発達とその支援」 猪平 眞理（宮城教育大学）

16時10分～16時20分 休憩

16時20分～18時20分 シンポジウム「インクルーシブ教育時代の視覚障害児への早期介入の在り方を考える --盲学校の幼稚部・早期相談の取り組みの現状と課題を中心に--」

話題提供1 「盲学校幼稚部における実践」 生出 佳代子（横浜市立盲特別支援学校）

話題提供2 医療機関との連携「国立成育医療研究センターと行っているコラボレーションについて」 楠田 徹郎（東京都立久我山青光学園）

話題提供3 保護者の立場からの提言 今泉 梨香（ひよこの会〔視覚障がいを抱える乳幼児とその家族を支える会〕）

指定討論 青木 隆一（文部科学省初等中等教育局特別支援教育課）

司会 中野 泰志（慶應義塾大学）

2. 懇親会（1階・ファカルティラウンジ）

18時30分～20時00分 懇親会

会費：4,500円程度（飲み放題）

会場はキャンパス内にある緑に囲まれたレストランです（シンポジウム会場と同じフロアにあります）。

会場内で、リラックスした雰囲気、各地の情報交換を行いましょう。

大会スケジュール 2日目（8月21日 [日]）

1. 全体会（1階・シンポジウムスペース）

9時10分～ 9時30分 受付

9時30分～10時00分 総会

10時00分～11時30分 教育講演2

「乳幼児のことばの獲得における知覚情報の役割について」

皆川 泰代（慶應義塾大学）

2. 昼食休憩（お店はグルメマップをご参照ください）

11時30分～12時30分 昼食

3. ポスター・機器展示（2階・大会議室）

12時30分～14時45分 ポスター発表・機器展示

4. 全体会（1階・シンポジウムスペース）

14時45分～15時00分 閉会式

参加者へのご案内

1. 大会受付は、来往舎1階シンポジウムスペース前に設けております。1日目は12時15分より、2日目は9時10分より受付を開始いたします。
2. 大会2日目は、正面の自動ドアが使用できません。建物の左側に回り込んだところに入口がありますので、そちらからご入場ください。なお、2日目は、9時以前には会場に入ることが出来ませんので、ご了承ください。



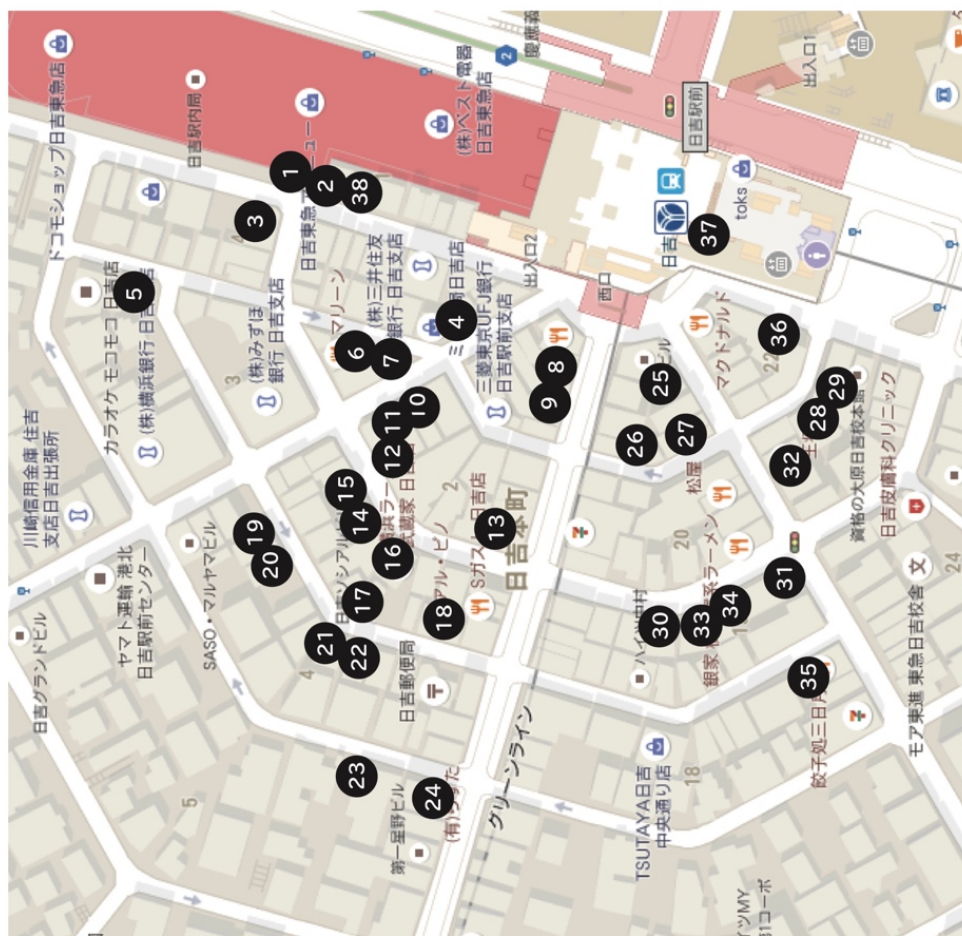
< 2日目の出入り口 >

3. 懇親会は、来往舎1階のファカルティラウンジにて開催いたします。
4. 2階中会議室にクロークを用意しましたので、ご活用ください。なお、貴重品のお預かりはできませんのでご了承ください。クロークの開室時間は1日目12時15分～18時30分、2日目9時20分～15時30分までです。
5. 宅配便の発送や書類のコピーは大会本部では受け付けておりません。学内や近隣のコンビニエンスストア等をご利用ください。
6. 会期中の呼び出しは原則としていたしませんので、ご了承ください。
7. 1日目は学内の食堂が利用可能ですが、2日目は近隣の食堂等をご利用ください。次ページにグルメマップを用意しましたので、ご参照ください。
8. 会場には、多目的トイレが各フロアにあります。
9. 会場では無線LANが利用できます。以下のSSIDとパスワードで接続してください。

SSID : keio

パスワード : vision2016

☆☆ 日吉 グルメマップ ☆☆



1. ラーメンどん (ラーメン)
2. つげめん あびすけ (つけ麺、ラーメン)
3. 喫茶まりも (喫茶店)
4. ド・マーレ湘南 日吉 (パスタ、イタリアン)
5. 寅さん (居酒屋)
6. マリーン (パスタ)
7. ポットベリー (バー)
8. 横浜家系ラーメン香角屋 (ラーメン)
9. 沖縄食堂 チャンブル × チャンブル (沖縄料理)
10. SANTINO (ピザ、生パスタ、イタリアン)
11. 江戸前回転寿司ぎよし日吉店 (寿司)
12. とよからあげ 日吉店 (鳥料理、揚げ物、弁当) (持ち帰りのみ)
13. Vendor × Kitchen (ニューヨーク屋台、チキンオーバーライス)
14. 横浜串工房 日吉店 (焼き鳥、串焼き、鳥料理)
15. プクプク亭 (洋食、ハンバーグ、ステーキ)
16. 横浜ラーメン武蔵家 日吉店 (ラーメン)
17. 主水 (バー、お酒)
18. アル・ピノ (イタリアン、パスタ)
19. ひよし家 (ラーメン、つけ麺)
20. 欧風家庭料理 VON (欧風料理)
21. あがりや 日吉〇(創作居酒屋、炭火焼き、ダイニング)
22. 1階：いろり屋 金魚 (日本居酒屋)
2階：HOAHOA (ベトナム料理)
23. 和IN場 MARU ワインパマル日吉 (居酒屋)
24. とらひげ (とんかつ、定食・食堂、ハンバーグ)
25. 龍華 (中華料理、焼き小籠包)
26. 中華飯店 太楼 (中華、飯)
27. カレー屋 ハイ・ハウアーユー (インドカレー (ビルの3階))
28. 遊ZEN たつ吉 (料理とお酒)
29. そば処 たつ吉 (そば)
30. かんかん商店 日吉店 (居酒屋、鳥料理、串焼き)
31. ベアーズグリル (ステーキ)
32. 王将 (お好み焼き)
33. 王府 (中華料理、ラーメン、チャーハン)
34. 幸甚寿し (寿司、お酒)
35. 餃子処三日月 (餃子)
36. キッチンくりの木 (定食屋)
37. 日吉駅ビル2階：大戸屋 (定食屋)、杵屋 (うどん)
38. とんかつ三田 日吉店 (とんかつ、定食・食堂)

講演者・シンポジストへのご案内

1. 基調講演、教育講演、シンポジウムはすべて「来往舎1階・シンポジウムスペース」にて実施いたします。会場には、ウィンドウズ PC、Mac PC を用意いたしております。パワーポイントでのプレゼンが可能です。USB でデータをお持ちください。事前に、データをお送りいただいても構いません。
2. PC を持ち込まれる場合には、VGA もしくは HDMI で接続していただくことになりますので、ご了承ください。ご講演の前に接続テストをしていただけると幸いです。

ポスター発表のご案内

1. ポスター発表は2日目（8月21日）の午後ですが、ポスターのセッティングは、1日目の12時15分から可能です。2日目の13時までには、所定の場所に必ず掲示してください。なお、ポスターを貼付するためのテープ等は実行委員会にて用意しています。
2. ポスター会場は、2階大会議室です。
3. ポスター掲示板の掲示可能範囲の大きさは、幅110cm、高さ150cmです。
4. ポスター掲示板の上部には、発表題目と発表者全員の氏名と所属を明記してください。連名発表の場合には、主発表者の氏名の前に○印をお付けください。
5. 連名発表で主発表者が欠席の場合には、連名発表者が代行できます。
6. 資料の配布は発表者ご自身でお願いいたします。
7. コンピュータ等をご使用の方は、ご自身でご用意いただきますようお願いいたします。ポスター掲示板付近に電源を用意することはできませんのでご了承ください。

機器展示のご案内

1. 機器展示は2日目（8月21日）の午後です。セッティングは午前中（9時10分）から可能です。
2. 機器展示会場は、ポスター発表と同じ、2階大会議室です。
3. 原則として、長机2台と椅子2脚を用意いたします。事前にお申し込みいただいた業者様には、電源の用意をいたします。
4. 宅配便で事前にお荷物をお送りいただく場合には、8月19日（金）午前必着で以下にお送りくださるようお願いいたします。当日、車で搬入される場合には、大学の入口で守衛に、「心理学教室の中野泰志の研究会のために荷物を搬入してきた」ことを伝え、通行証を受け取ってください。

〒223-8521 神奈川県横浜市港北区日吉 4-1-1 慶應義塾大学・第8校舎・4階・心理学教室 中野 泰志 電話 045-566-1373
--

5. 荷物の返送は、学内のコンビニエンスストア（ローソン）等をご利用ください。

視覚障がい乳幼児の眼科診療と教育との連携

講演者：富田 香（平和眼科）

企画意図：

子供の視機能の発達を考えると、早期発見は極めて重要なテーマです。また、インクルーシブ教育を考える上でも、早期教育・療育は重要なテーマです。そこで、長年、障害のある子供達の眼科診療に携わって来られた小児眼科の権威である平和眼科の富田香先生にご登壇いただくことを企画しました。

基調講演では、小児眼科のお立場から、教育・福祉の関係者やご家族に知っておいて欲しいこと（小児の視力発達や早期介入の必要性、眼科診療情報の読み方等）や先生が担当してこられた症例等についてご紹介いただきたいと思いますと考えています。また、眼科と教育との連携についての先生のお考えをご紹介いただきたいと思いますと考えています。

視覚障害乳幼児の運動発達とその支援

講演者：猪平 眞理（宮城教育大学）

企画意図：

運動発達において、「模倣」は重要な役割を果たしていると考えられます。しかし、視覚に障害のある子供達は、視覚からの情報が制限されているため、「模倣」が困難です。そのため、運動能力を向上させるためには、初期の経験が重要な役割を果たすと考えられます。そこで、教育講演では、長年、視覚障害乳幼児の教育に携わってこられた猪平眞理先生にご登壇いただくことを企画しました。

猪平先生には、運動発達を支えるために、乳幼児期にどのような支援を行うべきかについて、豊富な事例を基に、ご紹介いただきたいと思います。

インクルーシブ教育時代の視覚障害児への早期介入の在り方を考える

--盲学校の幼稚部・早期相談の取り組みの現状と課題を中心に--

話題提供者：生出 佳代子（横浜市立盲特別支援学校）

楠田 徹郎（東京都立久我山青光学園）

今泉 梨香（ひよこの会〔視覚障がいを抱える乳幼児とその家族を支える会〕）

指定討論者：青木 隆一（文部科学省初等中等教育局特別支援教育課）

司会：中野 泰志（慶應義塾大学）

企画趣旨

視覚障害のある乳幼児の専門家は、まず、家族、特に、母親に寄り添い、子育てに関する疑問に適切に答えながら、子供達の発達段階に応じて様々な社会活動に参加できるように支援する必要があります。特に、インクルーシブ教育が盛んになる程、専門家と出会うチャンスが少なくなる可能性があり、早期介入の必要性は高まりつつあると考えられます。

本シンポジウムでは、地元横浜から横浜市立盲特別支援学校の幼稚部の取り組みを、東京都立久我山青光学園からは国立成育医療研究センターとの医療・教育連携の取り組みを、そして、ひよこの会（視覚障がいを抱える乳幼児とその家族を支える会）からは保護者の活動や思いを話題提供していただきます。そして、文部科学省初等中等教育局特別支援教育課特別支援教育調査官から指定討論をしていただいた上で、フロアの皆さんからも情報提供やご意見等をいただきながら、議論を深めたいと思います。

話題提供1 「盲学校幼稚部における実践」（生出 佳代子；横浜市立盲特別支援学校）

話題提供2 医療機関との連携「国立成育医療研究センターと行っているコラボレーションについて」（楠田 徹郎；東京都立久我山青光学園）

話題提供3 保護者の立場からの提言（今泉 梨香；ひよこの会〔視覚障がいを抱える乳幼児とその家族を支える会〕）

乳幼児のことばの獲得における知覚情報の役割について

講演者：皆川 泰代（慶應義塾大学）

企画意図：

視覚障害のある子供達にとって、聞くことやしゃべることは、視覚情報を補う上で、極めて重要だと考えられます。そこで、長年、乳幼児の言語の獲得や社会認知能力の発達を研究して来られ、「慶應義塾大学赤ちゃんラボ」を立ち上げられた皆川泰代先生にご登壇いただくことを企画しました。

教育講演では、乳幼児がどのように「ことば」を獲得するのか、また、ことばを獲得する際に、知覚情報が果たしている役割についてご紹介いただきたいと思います。

【ポスター発表1】**視覚障害教育における視覚、視機能のアセスメントを生かした指導、介入を広く特別支援教育の場で活用するためにー「見え方」を中核とした特別支援教育におけるカリキュラムのあり方についてー**

刀襦 豊(岡山東支援学校)

発達障害児童・生徒の見え方に対するスタンスは特別支援教育の場すべてに同様の見方、考え方で対処されているという状態にはまだ至っていない。見えているから、日常基本的な動作ができているからと、多様な視覚、視機能に関して手立ての必要な事例に対して十分な措置がなされていない。視覚障害教育の場面での指導事例や他の障害を持つ指導事例を広く検証し、適切な「見え方」について、認知、理解の面まで含めて活用の可能性を探る。

【ポスター発表2】**視覚障害がい児のための知的好奇心を育み、空間の認知を促す空・川・山・海に触る絵本の制作**

時實 茜(株式会社池田工業社)

視覚に障がいを持つ子どもたちにとって、空や山、川、海といった大きな空間はとてもわかりにくい存在です。土や葉っぱを触ることで山の全貌を想像することは難しく、そのこと自体を拒否してしまう子どもも少なくありません。この研究は立体や音などを駆使して、空や海などをイメージするお手伝いをしたり、それらの要素がどう関連しているのか理解したり、実際にこの場所に行ってみたい！触れてみたい！と思う気持ちを育てたりすることを目的としています。京都のライトハウス・あいあい教室様にご協力いただき、視覚に障がいを持つ2人の子どもたちと1年を通して遊び、試作を繰り返しました。波の音やお日様がピカピカ光る様子を感じたりすることで、海や山などに対する“興味を育てるおもちゃ”と、図鑑のように海や山などの“知識、情報を手で感じて学ぶ”おもちゃという2つの方向性からそれぞれの子どもに適したおもちゃを提案しました。

【ポスター発表3】**早期教育院内相談に関するアンケート調査**

山本 敬子(静岡県立静岡視覚特別支援学校)

県立こども病院での院内相談を受け、初回から10年以上経過した保護者10名に対して、アンケート調査を実施した結果の報告。

【ポスター発表4】

名古屋盲学校と当事者家族支援団体が連携した視覚障がい乳幼児保護者支援の取組

奈良 里紗・佐藤 由希恵・岩池 優希（視覚障がい者ライフサポート機構“viwa”）

加藤 芳子・上杉 相良（愛知県立名古屋盲学校）

目的：名古屋盲学校と当事者家族支援団体が連携した視覚障がい乳幼児保護者支援について報告する。
方法：2016年5月より毎月1回、土曜日に名古屋盲学校幼稚部を会場として、当団体が主催するパパママ会（2時間程度）を定期的実施している。2016年5月は5家族、6月は7家族の参加があった。本報告では、①実施日時や環境、②保護者からの相談内容について検討し、今後の取り組みの在り方を考察する。

結果と考察：①実施日時を土曜日に設定することで母親だけではなく、父親や祖父母等の参加があり、母親の普段の子育てに対する悩みを家族で共有する場となっていた。また、盲学校幼稚部の利用や保護者が相談している間、対象時やその兄弟が遊べるよう準備することが安心して相談する環境作りとして重要であると考えられる。②参加した保護者からの相談内容をみると、「言葉がでない」「もうすぐ2歳なのに歩かない」「目押しをやめされるにはどうしたらよいのか？」「まぶしがって外出ができない」等、発達に関する内容、「動物園に行っても見えないから楽しいのか？」「親は点字を勉強したほうがよいのか？」「お手伝いはできるのか？」等日常生活に関する内容がみられた。前者のような相談内容については、盲学校教員から専門家の立場として発達を促す働きかけについて助言を行いつつ、継続的な支援へとつなげていき、後者については、成人した視覚障がい当事者が自身の経験をもとに話題提供をすることができるものとする。

【ポスター発表5】

見えない・見えにくい子どもたちと絵本—さわる絵本による療育—

谷口 由佳・木村 あゆか（京都ライトハウス あいあい教室）

乳幼児期の子どもたちは、絵本を通して楽しみながら感性やコミュニケーション力、好奇心などを育てていくと共に、言葉と絵によって新しい情報を得ていく。しかし、視覚障がいのある見えない・見えにくい子どもたちにとっては、絵が中心となる乳幼児向けの一般的な絵本では、存分に楽しむことが難しい場合がある。視覚障がいのある乳幼児、学齢児童が通うあいあい教室では、見えない・見えにくい子どもたちが自らの手で触れて楽しむことができる様々な“さわる絵本”を療育で使用している。歌に合わせて楽しむ手作りの紙芝居や、全て布で出来た絵本、カラーの絵と絵に合わせた点図で出来た絵本などがある。物語への導入から絵本を読むまでを、子どもに合わせた内容、姿勢や見せ方で取り入れている。また、教材を手作りする中、元の絵を単に立体化するのではなく、本物に近い素材を使用する、絵では通常見えていない服の下を再現する、背景は簡略化し、何を触って感じてほしいか明確にするなどの工夫をしている。コントラストをよくし、きらきら光る素材を使用するなど、見えにくい子どもにとっても楽しめる要素を取り入れ、みんなで場を共有して読むことが出来るようにしている。子ども

たちは"さわる絵本"を通して、手で触ることに慣れていくと、物語の流れや登場人物などの位置を覚え、次第に自ら"探す"ようになっていく。また、月や虹などの天体、空や山などの自然、羽を広げた孔雀といった動物のあらゆる姿など、自分の知らない事物を知ることができる。そして、点字が読めるようになると、大人の読み聞かせばかりでなく、自分で読んで絵を確認することができ、ひとつの物語を長く楽しむことへと繋がっていく。このようにあいあい教室では、様々な感触に慣れ、手指の発達を促しながら、「これはなんだろう」と自分の手で触ってみようとする気持ち、「もっと見てみたい」、「知りたい」という気持ちを大切にしている。

【ポスター発表6】

いろんな感触あそびができるプールをつくってみました

吉田 育子（横浜訓盲学院）

ビニールプールや大きなタライの中にボール、新聞紙、ドングリ、風船、等の素材をいれました。子どもたちも中に入り遊びました。自分の体から触っている素材が離れてしまっても、範囲が決まっているので見つけやすく触りやすいです。

【ポスター発表7】

盲幼児の触探索・認知の発達過程—教材教具を用いた指導を通して—

福田 奏子・岡宮 彩奈・菊池 哲司・牛久 初音・
佐島 毅（筑波大学大学院 人間総合科学研究科）

盲幼児3名の教材を用いた指導事例から、幼児期初期の触探索の広がり方や、外界を認知する時の手の使い方の変化について分析を行った。その結果、触探索は、点から線へ、線から面へ、そして片手から両手へという広がり方であった。外界を認知する時の手の使い方では、片手のみ用いる段階、もう片方の手が探索や確かめの手として出てきた段階、片手で探索し、もう片方の手で操作するような両手協応の段階というように発達していった。幼児期早期から、教材を用いた具体的な体験を通して、このような手の使い方を育むことが重要であると考えます。

【ポスター発表8】

平塚盲学校幼稚部と乳幼児相談について

尾石 秀一郎（神奈川県立平塚盲学校幼稚部）

今回のポスターは、学校の知っていただくような内容のものを作成しました。本校の幼稚部の日課・活動等や、乳幼児の相談の状況等をお伝えできればと思います。『幼稚部案内』『学校案内』『理療教育』等の、学校で発行しているパンフレット等も持ってきましたので、お立ち寄りいただいて、ご覧いただきたいと思っています。

【ポスター発表 9】

視覚障がい乳幼児と摂食嚥下機能について

佐藤 由希恵・奈良 里紗（視覚障がい者ライフサポート機構 “viwa”）

目的：摂食嚥下機能は、乳幼児の成長を支える上で大きな役割を果たす。視覚障がい乳幼児の場合、離乳食の段階で食物を視覚的に捉えることができないゆえに、食べることに意欲的になれないこと（猪平，2007）、食べ物を口に入れても口型模倣が困難なために咀嚼が難しいことが指摘されている。本報告では、摂食嚥下過程、摂食嚥下機能の発達、視覚障がい児に対する配慮について文献に基づき報告する。

方法：猪平・大内・牟田口（2007）、山田・向井（2011）、片桐・北住・藤本・丸茂・谷口・山脇（2012）、高見（2015）の文献を参考に摂食嚥下機能の過程や発達、視覚障がい乳幼児への配慮について紹介する。

結果と考察：（1）摂食嚥下の過程 摂食嚥下の過程は、匂いや見た目から食べ物であると判断する認知期、口の中に食べ物を入れる口腔準備期、食べ物を咀嚼する口腔期、食べ物を咽頭に送り嚥下を行う咽頭期、食べ物の塊が食道に入る食道期の5つの過程がある（山田,2011）。その中で、視覚障がい乳幼児は、認知期に課題が見られると指摘されている。（2）乳幼児期の摂食嚥下機能の発達 乳幼児の摂食嚥下機能は、生後約1年で唇や舌の基本的な動きが獲得され、摂食嚥下の準備を行う経口摂取準備期、離乳食が開始される嚥下獲得期（5か月）と捕食獲得期がある。離乳食中期の7か月頃になると、食べ物を押しつぶしながら食べる押しつぶし期があり、9か月頃の離乳食後期になると、すりつぶし期へと移行する（向井,2011）。その後は、自食準備期、手づかみ期、食具食べ期と自力で食べられるようになる。（3）視覚障がい乳幼児の摂食嚥下に対する配慮 視覚障がい乳幼児は、視覚的な情報が得られないため、食物の硬さや匂い、味を通して食べ物を認識していく。食への意欲を引き出す方法として、食事を楽しいコミュニケーションの場とするとともに（高見，2015）、手づかみ期では、食べ物を手で握みやすい形にすることも1つの方法である（猪平，2007）。また、声かけで口に食べ物が入ることを知らせる段階から、「人参、甘くておいしいね」と食べ物と味や匂いを結びつけるような配慮が挙げられる（神奈川県教育委員会，2007）。（4）視覚障がいとほかの障がいを併せ持つ乳幼児の摂食嚥下 摂食嚥下機能が呼吸と協調によって行われている（向井,2011）。そのため、重複障がいがある場合は、消化器や呼吸の状態、筋力の状態を意識しながらの食事が必要である。そして、重複障がいの種類や程度により、視覚障がいへの配慮以外に他の障がいに対する工夫も必要になる（向井，2011）。例えば、脳性麻痺の場合は、嚥下機能や飲み込みやすい姿勢にも配慮した摂食嚥下の指導が必要になると指摘されている（北住,2012）。

【ポスター発表 10】

育音（Iku- ON）ふれあい活動

土屋 朋子（株式会社 スマイルカンパニー）

生まれつき目に障害をもった音楽家 Shusui(周水)は、結婚して親になり、耳の不自由なお子さんと出会った。障害を持つ親御さんには色々な思いがあることを知り、自分を育ててくれた音楽を使って自分の経験をシェアし、障害のある子供達や親御さんを励ましたいと「育音（Iku-ON）」を立上げた。

自身の作品 CD 付絵本「アフリカゾウのなみだ」を携え、絵本の読み聞かせと唄のふれあい会を、盲学校、聾学校、各障害児施設を周り実施している。

【ポスター発表 11】

教育相談における件数の推移とニーズ—リーフレット配布の効果と教育相談に求められている要素の検討—

杉山 節子（横浜市立盲特別支援学校）

過去数年間の早期を含む教育相談数の増減や年齢別相談数からの考察。教育相談保護者へのアンケートのまとめから考える、今幼稚園教育相談に求められていることの考察 等。

【ポスター発表 12】

東京都立八王子盲学校幼稚部・教育支援部の実践紹介

南部 弥寿子（東京都立八王子盲学校）

幼稚部の教育と育児相談について

- ①カリキュラム（時間割と授業風景の写真とその写真の説明）
- ②特色ある授業を抜粋しての紹介と授業風景の写真（保育園との交流、触ってみよう、リトミック、畑活動、親子で遊ぼう）
- ③育児相談について

【ポスター発表 13】

地域における視覚障害乳幼児支援のあり方を考える—高知県の実例を通して—

上光 陽子（高知県立盲学校）

全国的に、盲学校の在籍数の減少・重度重複障害児の割合の増加が言われて久しいが、高知県では、平成 27 年度の視覚障害での身体障害者手帳保持者 3,021 名のうち、18 歳未満の子どもの数は 21 名（1%未満）にもかかわらず、地域への乳幼児教育相談の需要は減ることはない。

その背景には、高知県地域福祉部障害保健福祉課を中心にすすめられてきた「ル・ミエールプラン」という、教育・福祉・医療の連携をコンセプトとし、中途視覚障害者を中心としたリハビリテーション訓練と、「地域の支援者」への視覚障害理解・啓発活動がある。盲学校は教育分野として、当初からこのプロジェクトに参加、ライフステージに沿った様々な支援が可能であることをアピールしてきた。この約 15 年の活動を通して「具体的な視覚支援の方法」を学んできた、高知県内 5ヶ所の福祉保健所の保健師さんや PT さんなどとの連携が進み、地域の実情を踏まえた相談依頼が来るようになってきている。

高知県のような人口が少なく、かつ中山間の多い地域の盲学校からは、「いかにしたら盲学校認知度が上がるのか？」といった質問がよく聞かれる。高知盲の取組から見てきたことは、盲学校の認知度と

いうより、まず「視覚支援の理解・啓発（認知度も含めて）」に視点を当て、地域の様々な支援者が視覚支援とは何かを「具体的に理解」し、一体となって「継続的に」当事者支援を行っていく中から育まれていくことが必要ではないかということである。

今回の発表では、「地域での視覚障害支援」の現状と課題として、参加者の皆様と情報や課題を共有したいと思う。

【ポスター発表 14】

盲学校への通学支援の現状と課題--保護者に対する全国調査からの考察--

中野 泰志・三科 聡子・山口 毅（慶應義塾大学）

盲学校への通学においては、スクールバスや就学奨励費等、文部科学省の支援制度が利用できる。しかし、地域や学校によってはスクールバスを運行していなかったり、自宅からスクールバスのバス停までの移動支援が必要だったりする場合がある。また、厚生労働省の移動支援に関する事業では「通勤、営業活動等の経済活動に係る外出、通年かつ長期にわたる外出」を対象としていないため、これらのケースでは、保護者が通学の支援を行わざるを得ないと考えられる。その結果、子供の通学支援のために、保護者の社会参加に影響が出ている可能性がある。そこで、本研究では、盲学校への通学支援の実態及び通学支援が保護者の社会参加へ及ぼす影響について全国調査を実施した。

株式会社アーチャレジー

(株)アーチャレジーでは、弱視のお子さんでもお使いいただける、筆記用具を展示致します。黒い紙に白い罫線が引かれた白黒反転ノートや、白い紙に太い罫線が引かれたかっこいい・かわいいノート KIMINOTE (キミノテ) がございます。他にも黒い紙に書けるボールペンや芯が折れなくて安全なシャーペン、鉛筆類をご紹介しますので、是非お立ち寄りください。

(株) インサイト

【展示予定品】トパーズ PHD、オニクスデスクセット HD、オニクスポータブル HD、ルビー7HD、ルビーHD5 インチ、ルビーHD4.3 インチ

カシオ計算機株式会社

カシオ計算機(株)では、視覚特別支援学校の生徒様向けフルカラー触覚教材を作成できる2.5Dプリントシステムを開発しました。今回の大会での機器展示では、たくさんの2.5Dプリントコンテンツをご用意して、皆様のご来場をお待ちしております。

カジヤマプロテゼ東京(株式会社カジヤマプロテゼ)

この度、機器展示をさせていただきます「カジヤマプロテゼ」と申します。弊社は「義眼」を専門に取り扱っており、全国の弊社営業所はもとより、各地の医療機関等にて義眼の製作や相談会などを行っております。今回、「各種義眼のサンプルの展示」・「モニターでの義眼のつけ外しの動画」等を予定しております。そのほかに義眼の「日常の取り扱い方法」や「費用補助のお手続き」等をまとめた小冊子をお配り致します。かねてより、義眼の装用が必要な成長時期の方、特に乳幼児のお子様には、「義眼」の役割がとても重要だと言われています。この機会に展示ブースにお越し頂き、弊社スタッフに何でもお気軽にお尋ね下さい。

東海光学

遮光眼鏡 CCP シリーズは多くの視覚障害者の方々にご使用いただいております。まぶしさを感じる人々へ QOL の向上を目指し、商品を生産、販売してきました。新商品もありますので是非、ご覧になってください。【出品品目】遮光眼鏡 CCP/CCP400 シリーズ、ビューナル BY STG、ヴェルジネ BY STG

富士ゼロックス株式会社

「教科書バリアフリー法」に基づいて、教科用特定図書等の発行・普及を目的とした「教科書デジタルデータ」を提供しています。拡大教科書や UD ブラウザ等を展示します。

(有) 安久工機

ラピコは子供や女性でも持ちやすいようにデザインした視覚障がい者用の小型筆記具（触図筆ペン）です。AC100V 電源を用い、ペンに内蔵したヒータ（70度弱）でインク用のみつろうを溶かします。ペン先を軽く用紙に押し付けると先端から溶けたみつろうが用紙の上に出てきて線がかけます。かいた線は15秒程で固まり、指先で触れて確認できます。紙・プラスチック・ガラス等様々な素材にかくことが出来ます。失敗してもへらで削って修正出来ます。削り取ったみつろうは再利用可能です。万が一溶けたみつろうに触れてもやけど等の心配はありません。また、みつろうは蜂の巣が原料なのでアレルギーも少なく間違えて食べても体に影響はありません。

【第38回大会実行委員会メンバー（敬称略、順不同）】

事務局（慶應義塾大学・心理学教室）

中野 泰志（委員長）

皆川 泰代

三科 聡子

山口 毅

増田 早哉子

吉原 晴菜

秋津 彩

小菅 いづみ

中村 奈津美

東條 弥子

鈴木 あき恵

協力校校長

清水 隆宏（横浜市立盲特別支援学校）

中澤 恵江（学校法人 横浜訓盲学院）

村上 結（神奈川県立平塚盲学校）

協力校協力者

生出 佳代子（横浜市立盲特別支援学校）

吉田 育子（学校法人 横浜訓盲学院）

尾石 秀一郎（神奈川県立平塚盲学校）

【視覚障がい乳幼児研究会 事務局】

〒603-8302 京都市北区紫野花ノ坊町11

京都ライトハウス あいあい教室内

視覚障がい乳幼児研究会 事務局 古川 千鶴

TEL: 075-462-4462

FAX: 075-462-4464

E-Mail info@abbc88.org

【第38回大会実行委員会 事務局】

〒223-8521 神奈川県横浜市港北区日吉4-1-1

慶應義塾大学 日吉心理学教室

中野 泰志

TEL: 045-566-1221（研究会当日の緊急連絡用電話番号）

FAX: 045-566-1374

E-Mail info@nakanoy.econ.keio.ac.jp